

**(3) 介護老人保健施設における施設の目的を
踏まえたサービスの適正な提供体制等に
関する調査研究事業
(結果概要)(案)**

(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

1. 調査の目的

介護老人保健施設については、入所者が居宅で生活ができるようリハビリテーション等を提供する施設であり、今後、慢性期の医療と介護のニーズをあわせもつ高齢者が増加していく中で、当該施設の目的に沿った取組みがより重要となる。そこで、例えば、

- ・介護老人保健施設で提供される施設サービスから居宅サービスへの円滑なサービスの移行に向けた取組みや、介護老人保健施設における在宅支援の取組み
 - ・介護老人保健施設の目的に相応しい医療・介護サービスの適正な提供体制や取組み
 - ・介護老人保健施設のサービスを活用することで在宅での生活を円滑に行うことが可能な利用者の特徴
- 等について、調査を行い、平成30年度に予定されている介護報酬と診療報酬との同時改定に向けた議論に資するデータの収集を目的とする。

2. 調査方法

	調査方法・調査対象・回収状況
介護老人保健施設調査	厚生労働省より提供を受けた全国の施設名簿をもとに、介護老人保健施設全数(4,216施設、ただし被災地域を除き4,062施設)を対象に、調査票を用いた郵送調査を行った。
介護老人保健施設票	【発出数】4,062施設【回収数】1,910施設【回収率】47.0%【有効回収数】1,874施設【有効回収率】46.1%
入所者票	【対象者】施設票の対象の施設のうち25%の施設(1,019施設)において、調査日の入所者のうち抽出率10%で無作為に抽出した入所者を調査対象とした。【有効回収数】3,432人
退所者票	【対象者】施設票の対象の施設のうち25%の施設(1,019施設)において、平成28年10月1か月間の退所者全員を調査対象とした。【有効回収数】2,922人
短期入所療養介護票	【対象者】施設票の対象の施設のうち30%の施設(1,219施設)において、調査日の利用者全員を調査対象とした。【有効回収数】361施設(1,424人分の利用者データ)
通所リハビリテーション票	【対象者】施設票の対象の施設のうち20%の施設(812施設)において、調査日の利用者のうち抽出率20%で無作為に抽出した利用者を調査対象とした。【有効回収数】291施設(1,755人分の利用者データ)
訪問リハビリテーション票	【対象者】施設票の対象の全施設(4,062施設)において、調査日の訪問者全員を調査対象とした。【有効回収数】257施設(1,500人分の利用者データ)

※各施設における短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの実施の有無は調査実施前に把握できていなかったため、各事業を実施していない施設も調査票の発出先に含まれている。

(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

3. 調査結果概要

1) 回答施設の基本情報

○本調査の回答の介護老人保健施設(以下、施設)の入所定員は、平均87.2人、中央値100人であった。

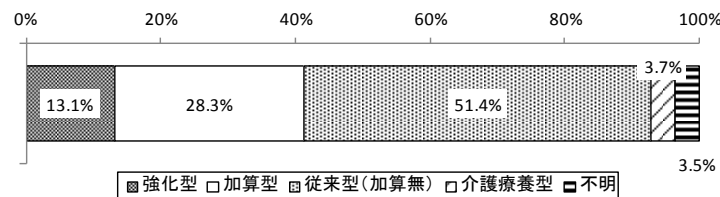
図表3-1-6 入所定員

	件数	平均値	標準偏差	中央値
介護老人保健施設 入所定員	1,807	87.2	31.9	100.0
強化型	245	84.4	28.3	90.0
加算型	530	87.3	29.0	100.0
従来型(加算無)	962	89.8	32.1	100.0
介護療養型	70	60.4	45.8	50.0

注) 施設サービス費が不明なものを除く

○介護報酬の届出をもとに、「強化型」(在宅強化型)、「加算型」(在宅復帰・在宅療養支援機能加算届出あり)、「従来型(加算無)」(従来型で、同加算無)、「介護療養型」の施設類型に分けたところ、「強化型」が13.1%であった。

図表3-1-1 介護報酬の届出をもとにした施設類型(n=1,874)



強化型: 介護報酬上の届出が在宅強化型

加算型: 介護報酬上の届出が従来型、かつ在宅復帰・在宅療養支援機能加算の届出有
従来型(加算無): 介護報酬上の届出が従来型、かつ在宅復帰・在宅療養支援機能加算の届出無

介護療養型: 介護報酬上の届出が療養型または療養強化型

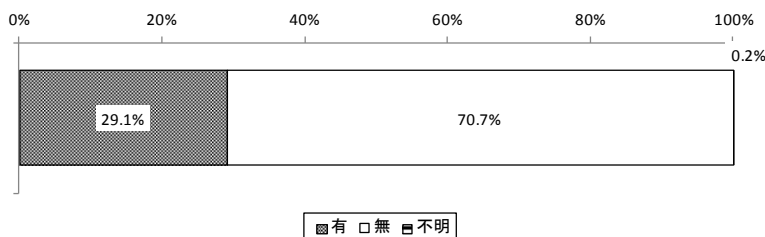
○施設のリハ職は、平均3.2人(常勤換算数)であった。通所リハには平均2.2人配置、訪問リハには平均1.6人配置されていた。

図表3-1-48 職員体制(常勤換算数)(平均値)

単位: 人

	施設 (n=1,806)	通所リハ (n=1,532)	訪問リハ (n=310)
医師	1.0	0.5	
理学療法士	1.7	1.3	0.9
作業療法士	1.2	0.8	0.6
言語聴覚士	0.3	0.1	0.1
(リハ職 小計)	3.2	2.2	1.6
看護職員	9.8	1.1	
介護職員	28.0	7.9	
歯科衛生士	0.1		
栄養士	1.3		
うち管理栄養士	1.1		
介護支援専門員	1.6		
支援相談員	1.6		
その他の職員	5.4		
合計	52.0	11.7	1.6

図表3-1-9 認知症専門棟の有無(n=1,874)



図表3-1-11 認知症専門棟の定員

単位: 人

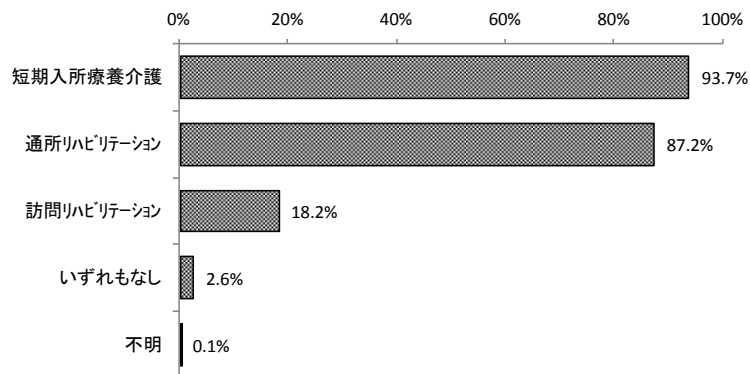
	件数	平均値	標準偏差	中央値
認知症専門棟 定員	542	41.8	12.3	40.0

(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

2) 併設サービス・施設について

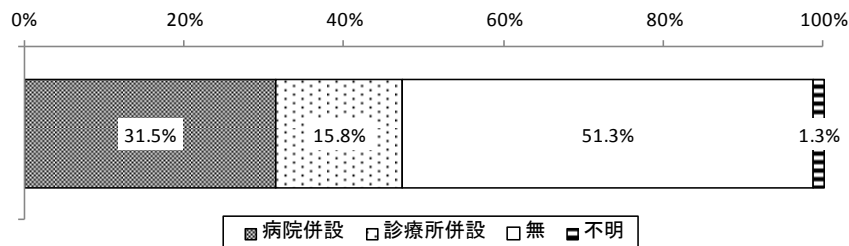
○施設での短期入所療養介護の実施率は93.7%、通所リハの実施率は87.2%、訪問リハは18.2%であった。

図表3-1-29 実施しているサービス(複数回答)(n=1,874)

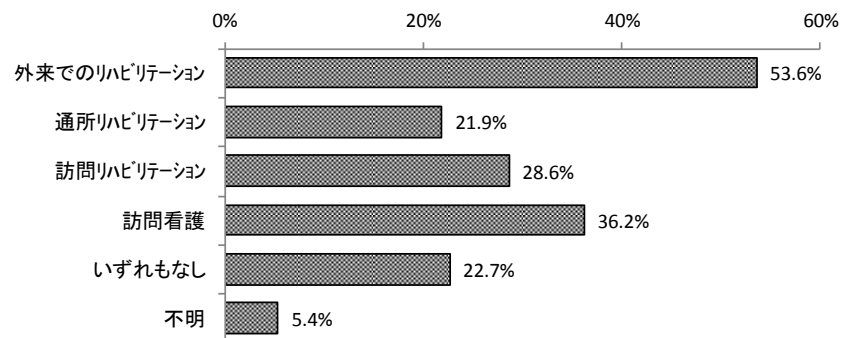


○病院が併設の施設は31.5%、診療所併設は15.8%であった。
併設の病院または診療所がある場合、併設病院・診療所での外来リハの実施率は53.6%、通所リハは21.9%、訪問リハは28.6%、訪問看護は36.2%であった。

図表3-1-33 病院または診療所の併設状況(n=1,874)



図表3-1-39 併設の医療機関で実施しているサービス(複数回答)(n=887)

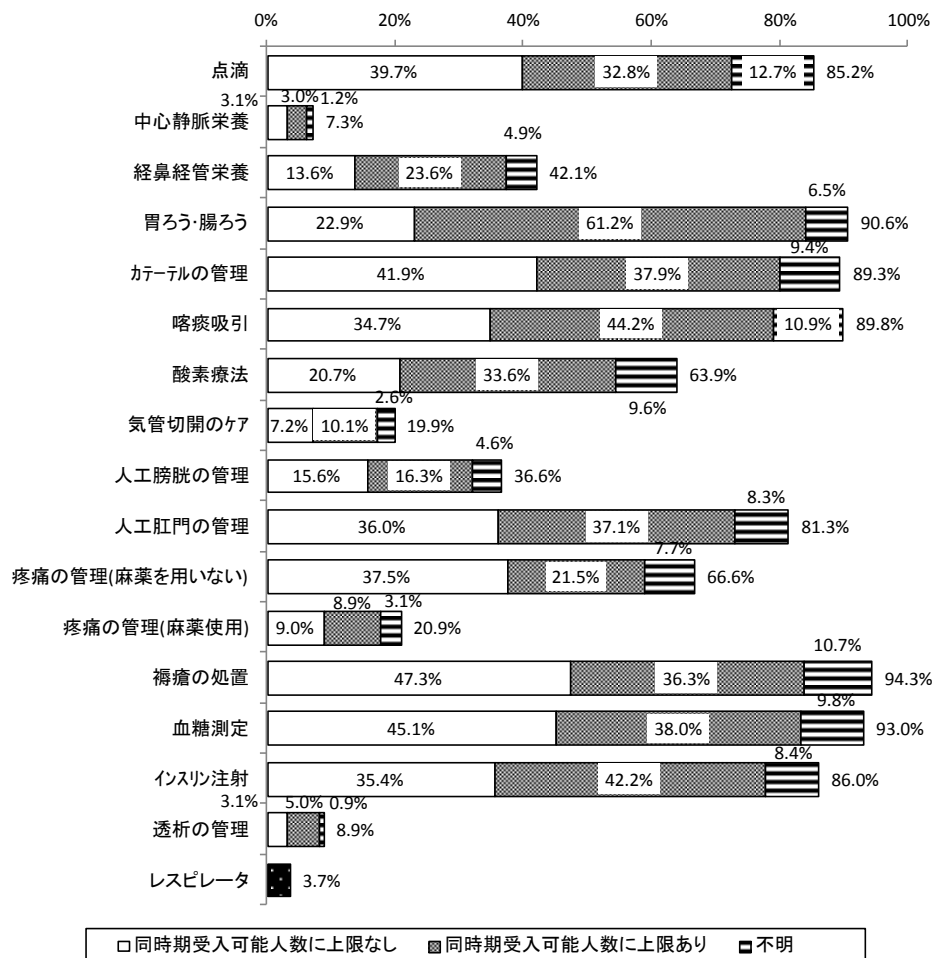


(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

3) 医療的ケアの対応について

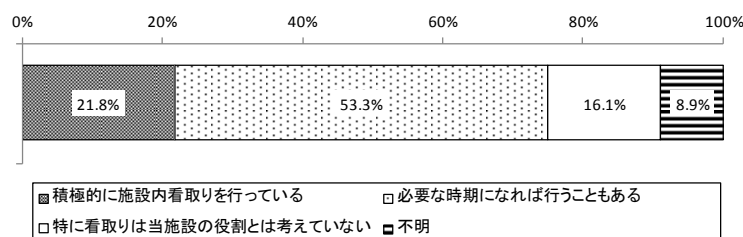
○医療的ケアの必要な利用者への対応について施設が受入可能としているものは、「褥瘡の処置」「血糖測定」「胃ろう・腸ろう」が挙げられた。

図表3-1-56 施設内で対応可能な処置(複数回答)(n=1,874)

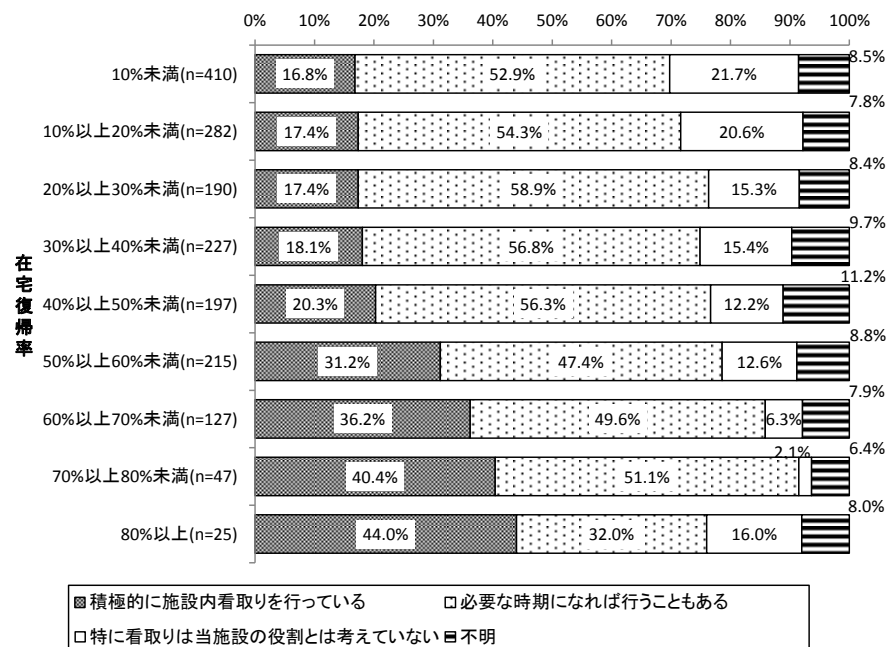


○看取りに関する基本的な方針として、「積極的に施設内看取りを行っている」が21.8%、「特に看取りは当施設の役割とは考えていない」が16.1%であった。
在宅復帰率が80%以上では、「積極的に施設内看取りを行っている」割合が44.0%であった。

図表3-1-54 看取りの基本的な方針(n=1,874)



図表3-1-55 在宅復帰率別 看取りの基本的な方針



(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

4) 退所者との関わり等

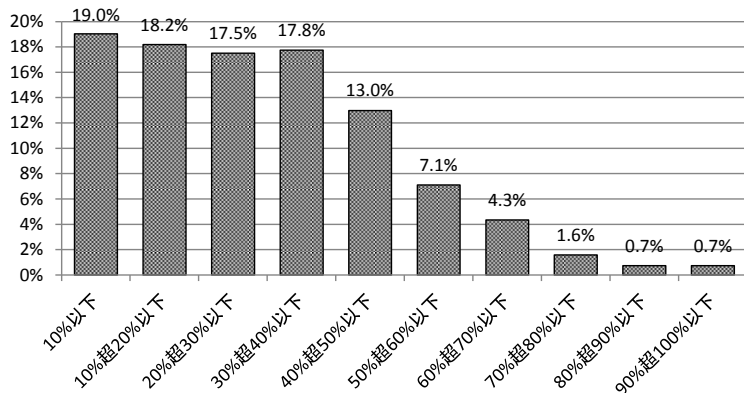
○調査日の入所者のうち、過去にも自施設の入所経験があった入所者数の比率は29.2%であった。

図表3-1-72 過去に自施設への入所経験がある入所者数の調査時点の入所者数に対する比率

	件数	平均値	標準偏差	中央値
過去に自施設への入所経験がある入所者数の比率	1,633	29.2	19.7	27.5

単位：%

図表3-1-73 過去に自施設への入所経験がある入所者数の調査時点の入所数に対する比率



調査時点の入所者に占める自施設への入所経験がある入所者の比率

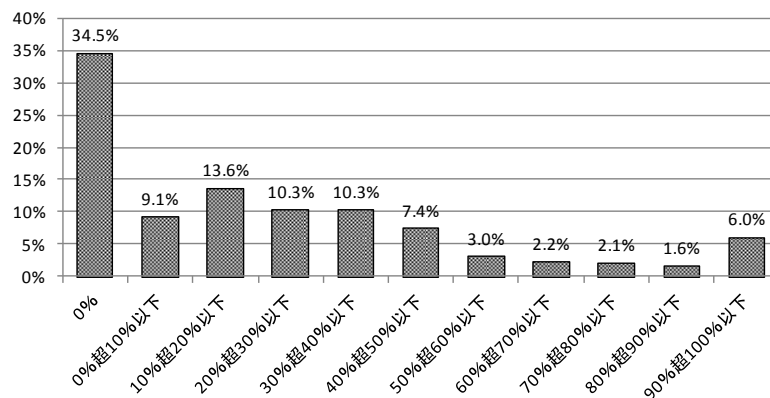
○平成28年10月1か月間の短期入所療養介護の利用者のうち、自施設の退所者の割合は平均24.4%であった。通所リハでは平均7.3%、訪問リハでは平均8.3%であった。

図表3-1-134 短期入所利用者に占める自施設の退所者の比率

	件数	平均値	標準偏差	中央値
自施設の退所者の比率：短期入所	1,384	24.4	28.6	15.4

単位：%

注) 短期入所利用者数・自施設の退所者数の両方に記入がある施設についての集計結果である。短期入所利用者数が0人の場合は集計対象に含まれない。



平成28年10月の短期入所療養介護の利用者に占める自施設の退所者の比率

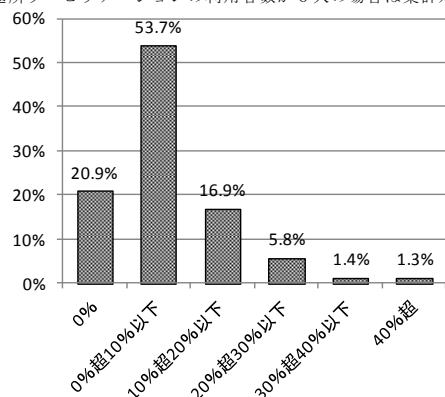
(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

図表3-1-137 通所リハビリテーションの利用者に占める自施設の退所者の比率

単位：％

	件数	平均値	標準偏差	中央値
自施設の退所者の比率:通所リハ	1,370	7.3	10.4	3.8

注) 通所リハビリテーションの利用者数・自施設の退所者数の両方に記入がある施設についての集計結果である。通所リハビリテーションの利用者数が0人の場合は集計対象に含まれない。



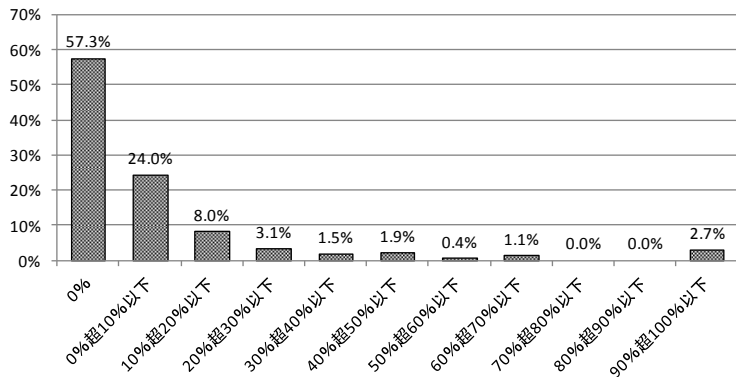
平成28年10月の通所リハビリテーションの利用者に占める自施設の退所者の比率

図表3-1-141 訪問リハビリテーションの利用者に占める自施設の退所者の比率

単位：％

	件数	平均値	標準偏差	中央値
自施設の退所者の比率:訪問リハ	262	8.3	19.2	0.0

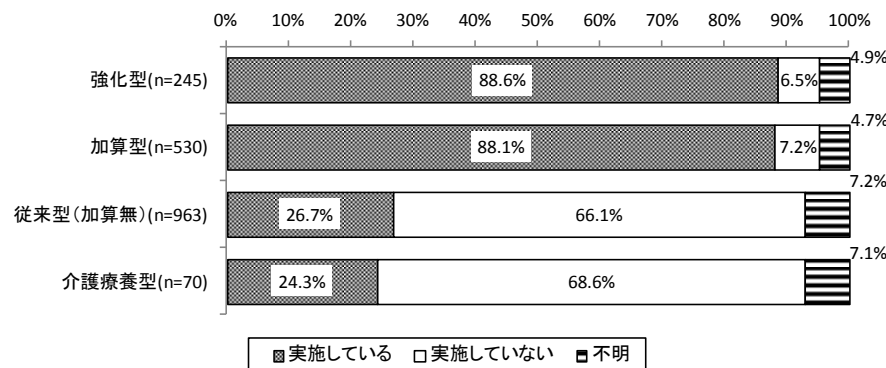
注) 訪問リハビリテーションの利用者数・自施設の退所者数の両方に記入がある施設についての集計結果である。訪問リハビリテーションの利用者数が0人の場合は集計対象に含まれない。



平成28年10月の訪問リハビリテーションの利用者に占める自施設の退所者の比率

○退所者について退所後の状況の確認をしている施設は強化型では88.6%、従来型(加算無)では26.7%であった。

図表3-1-28 施設類型別 退所後の状況確認の実施の有無



(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

5) 入退所の状況、ベッド稼働率・在宅復帰率等

○在宅復帰率が50%超では、ベッドの稼働率が95%以上は16.8%であった。

○ベッド回転率は、平均9.9%であった。強化型では平均17.2%であった。

図表3-1-13 ベッド回転率(単位:%)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
介護老人保健施設 ベッド回転率	1,535	9.9	6.9	8.9
強化型	224	17.2	6.9	15.0
加算型	498	11.2	5.0	10.1
従来型(加算無)	760	7.1	5.3	6.0
介護療養型	53	7.5	13.8	5.0

注) 施設サービス費が不明なものを除く

○在宅復帰率は、平均30.5%、強化型では平均62.1%であった。

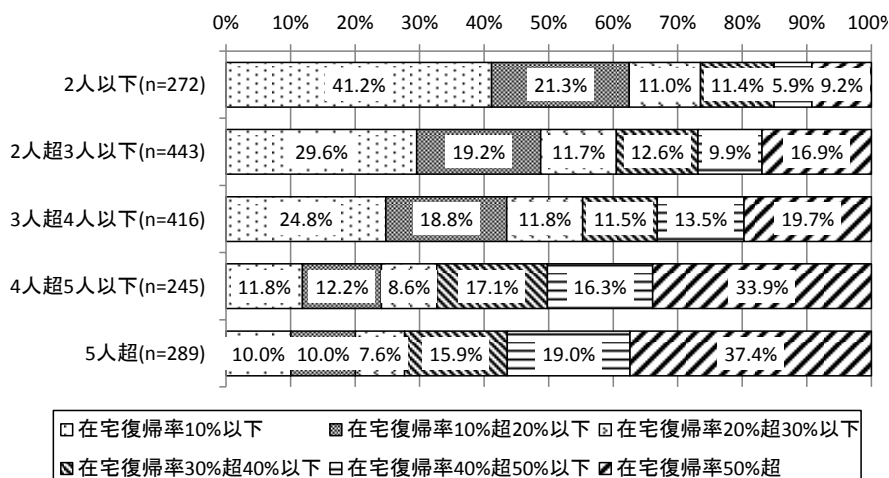
図表3-1-18 在宅復帰率(単位:%)

	件数	平均値	標準偏差	中央値
介護老人保健施設 在宅復帰率	1,669	30.5	22.2	28.9
強化型	233	62.1	10.4	60.9
加算型	510	42.9	13.3	42.4
従来型(加算無)	867	15.7	14.0	13.3
介護療養型	59	17.9	21.1	11.1

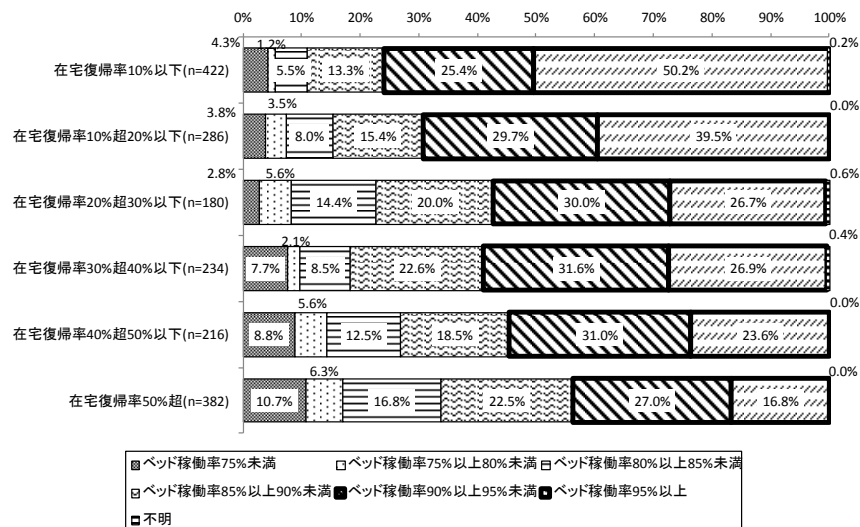
注) 施設サービス費が不明なものを除く

○定員100人あたりのリハ専門職数(常勤換算数)が5人超では在宅復帰率50%超が37.4%であった。

図表3-1-20 定員100人あたりのリハ専門職(常勤換算)と施設の在宅復帰率

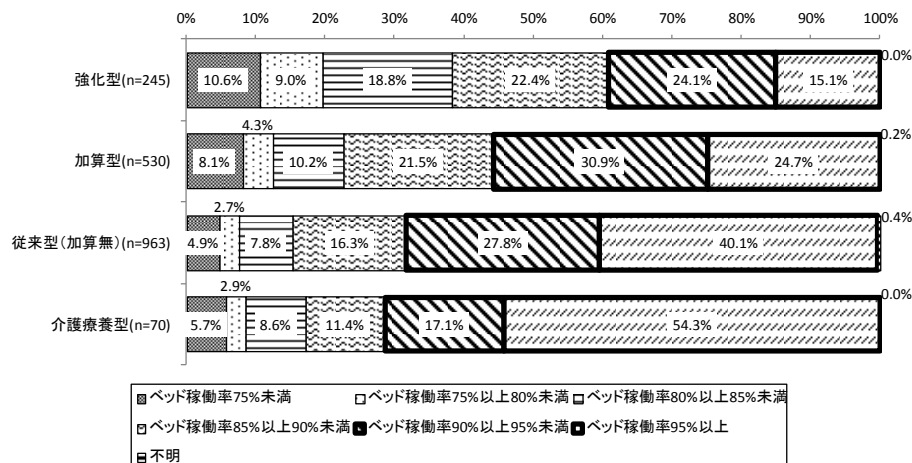


図表3-1-75 在宅復帰率別のベッド稼働率



○強化型ではベッドの稼働率が95%以上は15.1%、従来型(加算無)では40.1%、介護療養型では54.3%であった。

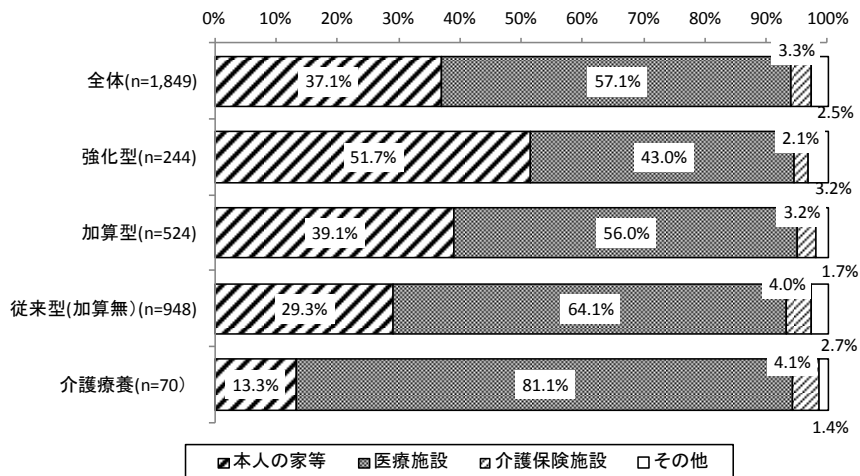
図表3-1-76 施設類型別のベッド稼働率



(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

○平成28年4月～9月の新規の入所者について、入所前の居所は「医療施設」が57.1%、「本人の家等」が37.1%であった。強化型では「本人の家等」が51.7%、従来型(加算無)では「本人の家等」は29.3%で「医療施設」が64.1%であった。

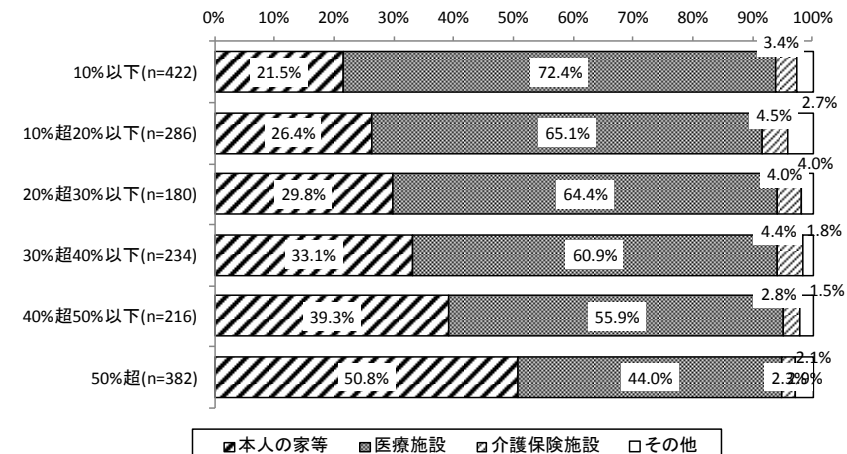
図表3-1-82 施設類型別 入所前の居所



本人の家等:	本人の家、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、養護老人ホーム、軽費老人ホーム・ケアハウス、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
医療施設:	病院、診療所
介護保険施設:	他の老人保健施設、特別養護老人ホーム

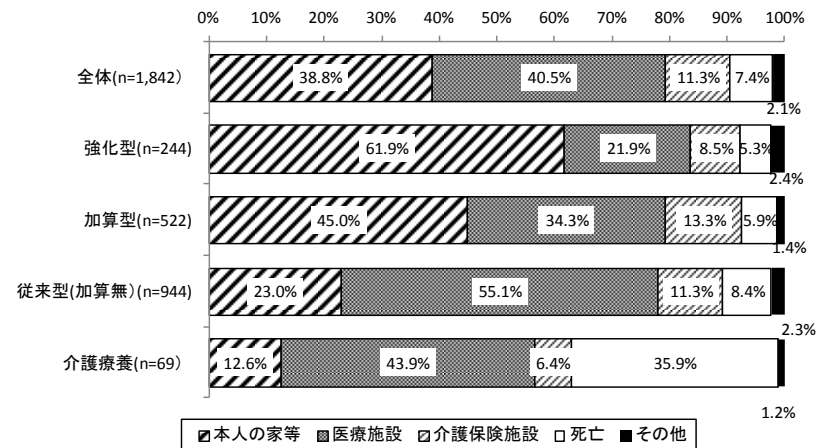
○在宅復帰率が50%超では、入所前が「本人の家等」が50.8%であった。

図表3-1-89 在宅復帰率別 入所前の居所



○平成28年4月～9月の退所者について、退所先は、「本人の家等」が38.8%、「医療施設」が40.5%であった。「介護保険施設」は11.3%であった。強化型では「本人の家等」が61.9%、従来型(加算無)では「本人の家等」は23.0%で、「医療施設」が55.1%であった。

図表3-1-100 施設類型別 退所先



(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

6) 利用者ごとの入退所の状況、退所先の見込み等

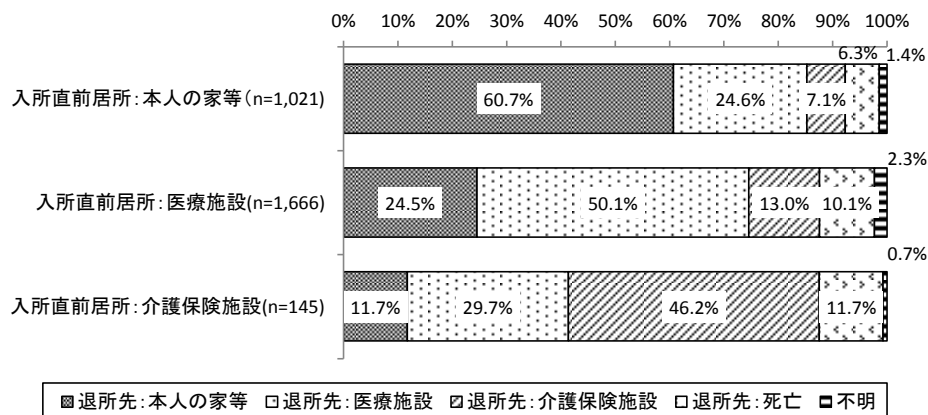
○「医療施設から入所して、医療施設に退所」した人が全体の28.5%、「本人の家等から入所して本人の家等に退所」した人が21.2%、「医療施設から入所して本人の家等に退所」した人は14.0%であった。

図表3-2-154 退所者の入所直前の居所と退所先(全体を100%で表記)

入所元	退所先	本人の家等	医療施設	介護施設	死亡	その他・不明	小計
本人の家等	620	251	72	64	14	1,021	
		21.2%	8.6%	2.5%	2.2%	0.5%	34.9%
医療施設	409	834	217	168	38	1,666	
		14.0%	28.5%	7.4%	5.7%	1.3%	57.0%
介護施設	17	43	67	17	1	145	
		0.6%	1.5%	2.3%	0.6%	0.0%	5.0%
その他・不明	23	30	17	0	20	90	
		0.8%	1.0%	0.6%	0.0%	0.7%	3.1%
小計	1,069	1,158	373	249	73	2,922	
		36.6%	39.6%	12.8%	8.5%	2.5%	100.0%

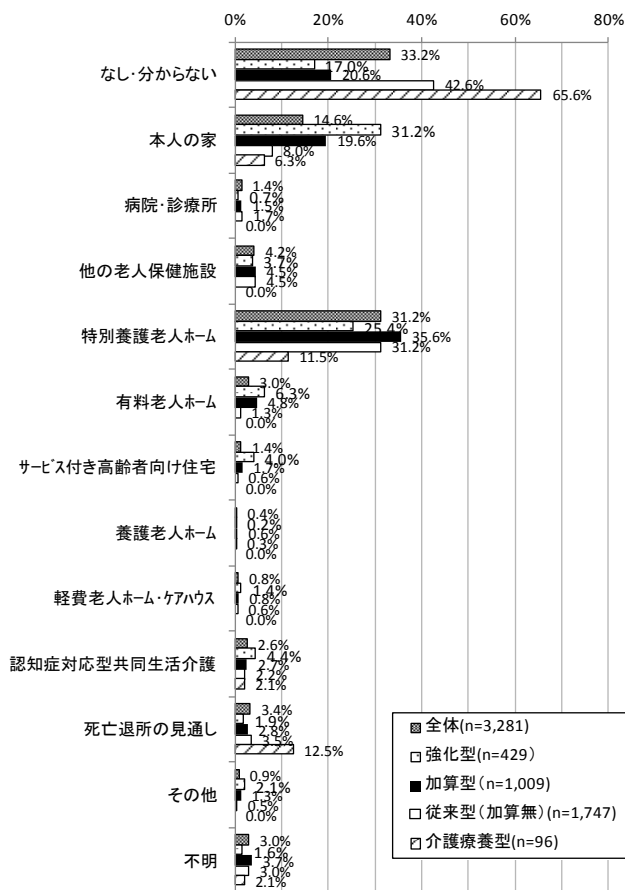
○本人の家等から入所した場合、退所先は「本人の家等」が60.7%、医療施設から入所した場合、「医療施設」への退所が50.1%であった。

図表3-2-155 退所者の入所直前の居所と退所先



○調査時点の入所者の退所先の見込みは、全体では「なし・分からない」が33.2%、「特別養護老人ホーム」は31.2%であった。強化型では「本人の家」が31.2%、加算型では「特別養護老人ホーム」が35.6%、従来型(加算無)では「なし・分からない」が42.6%、介護療養型では「なし・分からない」が65.6%であった。

図表3-2-2 退所先の見込み(施設類型別)

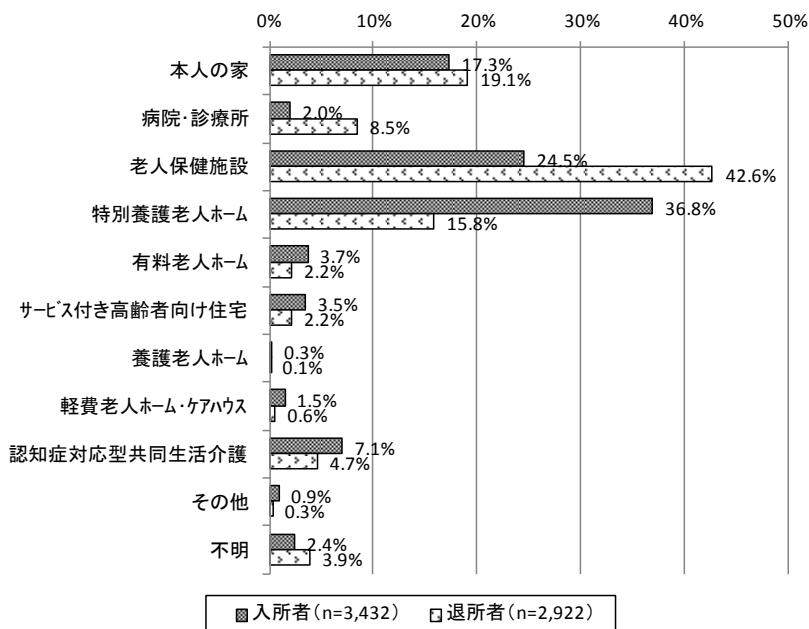


注) 施設サービス費が不明なものを除く

(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

○調査時点での入所者について、医療・介護ニーズを踏まえて最も適切と考える生活・療養の場は、「特別養護老人ホーム」が36.8%、「老人保健施設」が24.5%であった。
 退所者については、入所時点において医療・介護ニーズを踏まえて適切と考えられる生活・療養の場は「老人保健施設」が42.6%、「本人の家」が19.1%、「特別養護老人ホーム」が15.8%であった。

図表3-2-123 医療・介護ニーズを踏まえて、最も適切と考える生活・療養の場



7) 医療的ケア・リハビリテーションの実施状況

○退所者の退所日の医療的ケア等の実施状況について、退所後に医療施設に入院した場合は、「喀痰吸引」の実施が12.2%、「点滴」が17.9%であった。死亡による退所の場合は、「点滴」が59.4%、「喀痰吸引」が37.3%、「酸素療法」が34.5%、「持続モニター測定」が20.5%であった。

図表3-2-53 医療的ケア等の実施状況(複数回答)(退所者:退所先別)

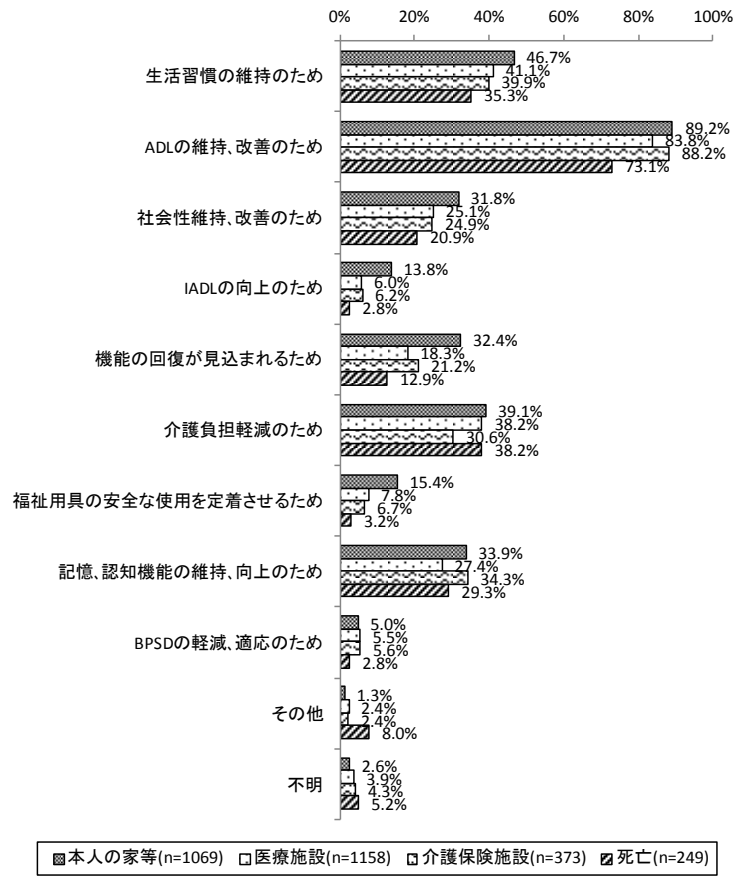
	本人の家 (n=1,069)	医療施設 (n=1,158)	介護施設 (n=373)	死亡 (n=249)
胃ろう、腸ろうによる栄養管理	1.7%	8.5%	4.8%	5.2%
経鼻経管栄養	0.2%	2.0%	0.3%	5.6%
中心静脈栄養の管理	0.0%	0.1%	0.0%	0.4%
カテーテル	2.3%	7.0%	5.1%	12.0%
ストーマの管理	1.3%	1.4%	0.8%	0.8%
喀痰吸引	1.4%	12.2%	3.2%	37.3%
ネブライザー	0.3%	0.9%	0.3%	2.0%
酸素療法	0.7%	6.4%	1.3%	34.5%
気管切開のケア	0.1%	0.4%	0.0%	0.0%
人工呼吸器の管理	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
注射	0.2%	1.3%	0.5%	2.0%
点滴	1.6%	17.9%	2.7%	59.4%
簡易血糖測定	3.4%	3.4%	2.7%	3.2%
インスリン注射	2.2%	2.2%	1.3%	2.0%
創傷処置	1.6%	5.2%	3.5%	5.2%
褥瘡の処置	1.6%	4.8%	3.5%	13.3%
透析	0.6%	1.8%	0.0%	0.4%
導尿	0.5%	1.2%	0.0%	1.2%
疼痛管理(麻薬なし)	5.0%	4.1%	3.8%	2.8%
疼痛管理(麻薬使用)	0.1%	0.3%	0.0%	0.4%
洗腸	4.7%	8.9%	7.8%	9.2%
排便	3.9%	8.4%	6.7%	11.2%
持続モニター測定	0.1%	0.9%	0.5%	20.5%
その他	3.6%	2.8%	2.9%	1.6%
実施していない	60.0%	35.2%	54.7%	12.9%
不明	13.7%	10.1%	12.6%	6.8%

(3) 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業

○退所者について、退所先が「本人の家等」の場合、施設で提供したリハビリテーションの目的は、「ADLの維持、改善のため」が89.2%であった。

○退所者に対して、退所前1週間に、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士が提供したリハビリテーションの内容は、退所先が「本人の家等」では、「歩行訓練」が71.5%、「筋力増強訓練」が70.9%であった。退所先が「医療施設」では、「関節可動域訓練」が64.9%、「筋力増強訓練」が47.4%であった。退所先が「介護保険施設」では「関節可動域訓練」が61.4%、「筋力増強訓練」が56.6%であった。「死亡」の場合は、「関節可動域訓練」が61.0%、「筋緊張緩和」が29.7%であった。

図表3-2-106 リハビリテーションの目的(複数回答)(退所者:退所先別)



図表3-2-112 退所者に提供したリハビリテーションの内容(複数回答)(退所先別)

	本人の家等 (n=1,069)	医療施設 (n=1,158)	介護保険施設 (n=373)	死亡 (n=249)
関節可動域訓練	54.9%	64.9%	61.4%	61.0%
筋力増強訓練	70.9%	47.4%	56.6%	16.9%
筋緊張緩和	25.4%	25.6%	25.7%	29.7%
持久力訓練	25.6%	14.2%	16.4%	8.4%
バランス練習	35.8%	15.2%	18.0%	4.8%
起居/立位動作練習	45.1%	37.7%	44.8%	17.7%
移乗動作訓練	26.1%	23.7%	28.7%	8.4%
歩行訓練	71.5%	41.6%	42.6%	10.4%
体操	19.5%	14.8%	19.3%	7.6%
摂食・嚥下訓練	3.0%	5.4%	4.8%	8.0%
言語訓練	2.1%	3.8%	4.0%	2.0%
トイレ訓練	9.4%	3.4%	5.4%	0.8%
入浴訓練	2.2%	0.2%	0.3%	0.0%
その他 ADL 訓練	7.2%	3.2%	3.5%	2.8%
IADL 練習	2.7%	0.5%	0.0%	0.0%
用具の適応訓練	11.1%	4.5%	3.5%	2.0%
在宅生活の模擬的訓練	14.3%	1.3%	1.3%	0.0%
記憶機能に関する訓練	12.9%	6.5%	8.3%	4.0%
認知機能に関する訓練	25.0%	18.0%	23.1%	11.6%
趣味活動	8.3%	5.6%	6.7%	2.8%
介助方法の指導	5.7%	4.0%	2.7%	5.6%
その他	3.4%	3.5%	2.9%	6.4%
いずれも提供していない	1.3%	4.1%	1.9%	20.9%
不明	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%